

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年11月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872300231		
法人名	有限会社 茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホーム ころ	ユニット名	あやめ
所在地	〒311-2423 茨城県潮来市日の出1-21-1		
自己評価作成日	平成25年7月5日	評価結果 市町村受理日	平成25年10月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0872300231-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年7月29日	評価確定日	平成25年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりにゆったりと関わりながら、利用者のできることで、得意としていることなど、能力を活かした役割のある生活を支援しています。
ホームには広々としたデッキや庭にはベンチがあり利用者は思い思いに過ごし外気浴を楽しんでいます。
また、パンを焼いたり、野菜や草花を育てたり、買い物や外食など利用者の楽しみごとを支援しています。
利用者同士がさり気なく助け合い、生活の中には笑顔が絶えず、アットホームな環境の下で地域との関わりを深めながら明るく生活しています。
利用者・家族・職員の良い三角関係が全ての家族と築けるよう日々精進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は近くに児童会館がある静かな住宅地の中にあり、広い敷地の中に藤棚を仕立てたり、ベンチを配置したりして、利用者が外気にふれながらお茶の時間を楽しめるよう支援している。
自家菜園で収穫した野菜を食材に活用し、利用者が旬の味覚を味わえるよう支援している。
代表者や管理者、職員は利用者を家族の様に思い、協力し合いながら利用者一人ひとりの思いを尊重した支援に努めている。
地域の人々や老人会、ボランティアと交流が図れるよう支援しており、利用者は大正琴や尺八のボランティアが来訪した時には、演奏に合わせて歌を歌って楽しんでいる。
利用者が制作した裂き織物の作品などを地域の展示会に出展するなど、個人の持っている力を生かしながら心穏やかに、ゆっくり、楽しく暮らせるように支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアを実践しており、職員間で利用者のもてる力を確認しあってプランを作成している。また、タオルたたみや食器拭きなど出来る事をやってもらっている。	「一人ひとりの思いを尊重し 家庭的な環境と地域住民との交流のもとで 個人のもっている力を最大限に生かしながら ころろ穏やかにゆったり、楽しく、暮らしていきます」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を代表者と幹部職員とで作成している。 理念を玄関と居間に掲示し、職員は朝礼時に唱和して共有を図り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、ボランティア（3団体）の方々に来て頂き、大正琴・尺八の演奏に合わせて歌を歌ったり、読み聞かせボランティアの方々との会話を楽しみながら、地域の方々との交流を深めている。	利用者は月1回開催する町内会主催の老人会の茶話会に参加したり、地域の祇園祭を見物したりして地域住民と交流している。 事業所は毎年近隣にある中学校の体験学習を受け入れたり、介護職員初任者研修の実習生を受け入れたりして、地域で必要とされる役割を担っている。 大正琴や尺八、読み聞かせなどの地域のボランティアを受け入れているほか、事業所主催の納涼祭には家族等やボランティアの人々を招待し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生（地元中学生）の職場体験で生徒を受け入れたり、ヘルパー講習の実習生（4月まで）を受け入れたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で出た意見を職員で検討し取り入れるようにしてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族等や市職員、民生委員で開催し、利用状況やレクリエーション活動状況、ボランティアの受け入れ状況、地域行事への参加状況を報告したり、外出やボランティアとの交流について話し合ったりして、サービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議を2ヶ月に1回開催していないため、前回の外部評価の結果を受けて目標達成計画に2ヶ月に1回の開催を掲げていたが、実現するまでには至らなかった。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催することを再度目標達成計画に掲げ、実現できるよう取り組むことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの空き情報や、入居者の状態などを市役所に出向いたときに話をしている。	代表者は毎月市担当者に事業所の空き室状況や行事結果を報告しているほか、相談事がある場合には市役所に出向き、担当者に相談して助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』についての勉強会を開催し、理解に努めている。又新人に対しては、入職時に学ぶ機会を設けている。	重要事項説明書にやむを得ない場合を除き、身体拘束を行わないことを明記している。 身体拘束排除に関する研修を実施したり、外部研修会の資料をファイルして職員一人ひとりに配布するなど、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。 夜間は防犯上の理由から家族等の承諾を得て施錠しているが、職員は玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者虐待防止法』について、職員が正しく理解できるように具体的な例をあげ確認している。またその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	自立支援法や成年後見制度について全体会議等の中で勉強し、対象者がいるか確認しあっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明に時間がかかる事を時に事前に連絡しておき、時間を十分とり事細かに説明し、家族に理解と納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には行事の感想など本人の希望やニーズの聞き取りしている。家族とは面会時に希望やホームの取り組みを説明しそれに対するの率直な感想や要望を聞くようにしている。会えない家族には年2回ほどアンケートなどを実施して意見を聞ける機会を設けている。	玄関に意見箱を設置している。 職員は利用者との日々の会話の中から意見や要望を聴くように努め、出た意見等を運営に反映させている。 家族等の面会時や家族等への電話連絡時に意見や要望を聴いている。 年2回家族会を開催しているほか、年2回郵送による記名式のアンケートを実施して家族等の意見や要望を汲みあげるように努めている。 「職員の名前が判るようにしてほしい」との要望を受け、名札を付て対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や要望を出しやすいように『職員用意見箱』を設置し、利用者や業務に対して意見・要望・改善提案などを出しやすいようにしている。また、出た意見を全体ミーティングで話し合っている。	職員用の意見箱を設置しているほか、月1回ミーティングを開催して職員の意見や提案を聞くとともに、出た意見等を運営に反映させている。 代表者は職員と少人数の食事会を行い、コミュニケーションを図っている。 管理者は日常の業務の中や休憩時間を利用して職員の話聞くように努めている。 管理者は「有給休暇を自由に取得したい」との職員の意見を受けて職員を新たに採用し、十分な人数を確保して有給休暇が取得し易いように改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に有給休暇取得ができるようにしている。また残業にならないよう定時帰宅を促している。職員の経験年数もかみしながら研修会に参加できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。又経験に応じて必要と思われる研修・講習会等にも参加させている。またベテラン職員には謙虚に話を聞く姿勢を、経験が浅い職員には物事を教わる姿勢を教えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームとの交流をはかり、職員が訪問したり受け入れたりして良い所を吸収しあえるように努め、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン等を基に積極的に関わりると同時に、本人のこだわりなどを探り、その傾向性を知って、本人に受け取りやすい態度と言葉を用いて信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に対して、どうあって欲しいのかなど家族の思いを聞き出し、その思いを実践できるように尽力することを約束することで、家族の不安を取り除き信頼関係を作れるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に不安に思っている事を聞き出しその改善に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の歌を教えてもらい一緒に歌ったり、野菜作りを一緒に行ったり、時には利用者の方が職員に気をつけていただいたりしながら生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や諸行事に参加して頂き、その時に家族と一緒に食事や出し物を楽しんだりして、家族との絆を大切にしている。また、家族交流会においては、家族からの意見・要望を聞ける場をもうけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話ができるような環境を提供している。本人が慣れしたしんだ店に買物や外食に出かけたりしている。	職員は利用者の家族等や友人の来訪時には、ゆっくり話ができるように居室にテーブルを用意したり、お茶を出して接待したりしている。 職員は利用者が行き慣れた近所のスーパーマーケットで買い物をしたり、馴染みの蕎麦屋で食事を楽しんだりできるよう付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単な体操やレクリエーションを通し、利用者同士が声をかけあったり、一緒に行くことで楽しんだり、孤立しないよう声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了（死亡等）しても、暑中見舞いや年賀状のやりとりをしている。また他施設に移った場合など、面会に行ったりもしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話のなかから、希望や意向などを聞き出せるようにして、随時職員間で話し合いをし、本人が望む『自分らしい生活』が送れるようよう検討している。	職員は利用者の生活歴を把握したうえで、日常の会話や表情、しぐさなどから思いや意向の把握に努めている。 新たに把握した利用者の要望などは申し送りノートに記載し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に入居までの生活歴などを聞き出し、なるべく今まで通りの生活リズムで過ごせるように、コミュニケーションを深めると共に、今までの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力（出来る事）を把握し、出来る事をしていただいている。又一人ひとりの心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた運動等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中での気づき、本人・家族の意見や要望を基にアセスメント・カンファレンスを行い介護計画を作成している。一定期間後にモニタリングを行い状況によっては介護計画を見直している。	介護計画は利用者や家族等の意向や利用者の生活面での課題を把握するとともに、職員の意見を取り入れながら計画作成担当者を中心に短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月と期間を定めて作成し、家族等の来訪時に説明して同意を得ている。 月1回介護支援専門員と職員による会議を開催し、介護記録を基に介護計画の設定期間毎の評価を行っている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化によって、日々の様子、記録を振り返りながら、職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人が発した言葉などを記録に残し、全職員が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。またその情報を元にその人に合ったニーズを見つけ出し支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、浪逆会（地域老人会の集まり）へ出席し、近隣の老人会の方々と交流している。あやめの時期にはあやめ見学に行ったりして楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関に受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的な健診も受けている。	月1回協力医療機関の医師による訪問診療で、利用者の健康管理をしている。協力医療機関への受診や眼科など協力医療機関以外の受診は職員が付き添い、受診結果は家族等の面会時や電話で報告するとともに、記録して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	5月より看護師不在となったが、医師の往診時に利用者の状態を伝え指示を仰ぎ対応するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、担当看護師から病状の説明を聞くようにし、早期退院に向けた連絡をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら、状況に応じ職員間で対応方針について検討している。また通院時に主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会を開催している。	重度化や終末期対応マニュアルを作成するとともに、「重度化した場合における対応に係る指針」に看取り介護の具体的な支援内容を明記し、契約時に利用者や家族等の同意を得ている。 看取り介護の勉強会を開催し、職員の理解を図るとともに精神的ケアに努めている。 協力医療機関が変更になったため、現在看取りは実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルに基づいて勉強会を開催している。また、利用者の急変や事故発生時に備えて迅速に対応できるように訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域の方に災害時の協力を承諾してもらっている。	年2回避難訓練を実施して結果を記録しているが、避難訓練で明らかになった課題や反省点を検討するまでには至っていない。 東日本大震災の経験をもとに、自家発電機を設置したり、毛布や食糧を備蓄しているが、備蓄品リストを作成して管理するまでには至っていない。 災害時には代表者の友人や知人の協力が得られることとなっているが、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。	避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけるとともに、避難訓練で明らかになった課題の改善に向けて検討することを期待する。 備蓄品は在庫数や賞味期限を記載するリストを作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対する対応が、職員間で共有できるよう、ミーティングで話し合い、プライバシーを傷つけないように配慮している。	職員は利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や、行動、発言を良く確認しながら声かけを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、常に自分が行うケアが利用者様のペースで行っているか確認するようにする。また、ことわざ・塗り絵・カラオケなど色々工夫した支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着て楽しんだり、時には職員と一緒に買物にでかけ本人の好きにな服を買ってきたりしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事（昼食・夕食）の準備や食器拭きをしてくださったりしている。また畑でできた農作物などを一緒に収穫に行き料理して食べたりしている。	夕食は宅配業者による献立だが、朝食と昼食の献立は利用者の状態や好みを配慮しながら利用者と職員が一緒に考えている。おやつは職員が手作りしている。自家菜園で収穫した野菜を食材に活用している。利用者は能力に応じて食事の準備やテーブル拭きなどの役割を担っている。月1回外食を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また体調によっては、お粥・刻み食などに変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアができる方は見守りや声かけを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、本人がトイレ行かれた時にはプライバシーを損ねないように、声かけや対応には十分注意している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をし、できる限りトイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食材を利用したりしている。また軽い運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回行っており、常時入りたい時に入れるようにしている。また入浴剤を入れたりし、入浴を楽しめるように工夫している。	基本的には週2回、利用者が入浴したい時間帯に入浴ができるよう支援している。希望があれば毎日でも入浴ができるよう支援している。要介護度の高い利用者でも入浴ができるように入浴用リフトを用意している。入浴を拒む利用者の場合は、タイミングを見計らいながら再度誘ったり、入浴の時間帯や入浴介助をする職員を替えたりしているほか、声かけの仕方を変えて無理のないように促している。柚子湯を取り入れたり、入浴剤を使用したりして、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。また、利用者の体調に合わせて休息を設けている。本人が「休みたい」と訴えがあった場合には和室や居室で休むよう誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ（花見・あやめ見学）に出かけたり、外食に出かけたりして楽しんでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物と一緒に出かけたり、天気の良い日はドライブに出かけたり、近くの公園まで散歩したりしている。	天気の良い日は利用者の体調に配慮しながら、近所の公園への散歩や食材の買い出しなど、希望にそった外出支援をしている。 居間兼食堂から出入りができるウッドデッキを設置し、車いす使用の利用者も自由に外気浴を楽しんでいる。 年間の行事計画を立て、花見やりんご狩り、花火大会などに出かけ、季節を感じながら旬の食べ物が味わえるよう支援している。 職員は利用者の希望にそって自宅に行ったり、墓参りができるよう付き添っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の管理が困難な為、必要な物や本人が希望する物は施設で一時立替え、職員と一緒に買い物に行き、支払いできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が家族に電話したい時に電話出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等に季節の花を飾ったり、季節感のある小物なども置いている。和室・ソファでゆっくりしながら談話しながら過ごしている。また天気の良い日はデッキに出て日光浴をしたりしている。	玄関に利用者が制作した裂き織物を飾っているほか、廊下や居間兼食堂には行事の写真を掲示したり、季節の花や利用者や職員が制作した七夕飾りなどの季節の作品を飾ったりして、季節感や家庭的な雰囲気を取り入れている。 居間兼食堂にソファを配置したり、居間兼食堂の隣に和室を設置したりして、利用者がお茶を飲んで寛ぎながら居心地よく過ごせるように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキから中庭に出る事もでき、藤棚のしたのベンチで利用者同士でお茶をしたり庭を眺めたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人の使っていたソファやベット・布団等を使用している。	居室にはエアコンやカーテン、押入れが備え付けられている。 利用者は使い慣れた衣類ラックやテレビなどの電化製品、家族の写真などを持ち込んで居心地よく過ごしている。 事業所は利用者が趣味の裂き織物を楽しむよう卓上型の簡易織り機を購入し、居室でも使用ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に応じて居室をトイレの近い場所にしたり、本人が自室を分るよう入り口に大きな名前札を設置している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこころ

作成日 平成25年10月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が2ヶ月に1回開催できていない状況にある。	2ヶ月に1回の開催を目標に定期的に行うことができるようにする。	年間開催予定表を作成し、出席者メンバーに配布し、その都度連絡・調整を行い開催していく。	12ヶ月
2	35	消防署立ち合いの避難訓練が実施されていない。	年1回は消防署立ち合いの避難訓練を実施するようにする。	避難訓練に参加してもらえよう消防署にお願いに行く。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。